

## 平成 26 年度病害虫発生予察特殊報 第 3 号

### ナスコナカイガラムシの発生について

#### 佐賀県

1. 病害虫名 ナスコナカイガラムシ (学名: *Phenacoccus solani* Ferris)
2. 発生作物 キュウリ (施設)
3. 発生の経過と概要
  - 1) 平成 26 年 6 月、佐賀県内の施設キュウリ圃場において、コナカイガラムシ類と推定される成虫及び幼虫 (以下、「成幼虫」という) がキュウリの茎葉及び施設内の数種の雑草に寄生しているのが確認された (写真 1~6)。
  - 2) これらの虫の同定を農林水産省門司植物防疫所に依頼したところ、本県未発生のナスコナカイガラムシ (学名: *Phenacoccus solani* Ferris) であることが確認された。
  - 3) キュウリ栽培終了後の発生状況を 7 月 22 日に調査したところ、当該圃場内の雑草において寄生が認められたものの、ハウス周辺の雑草および隣接ハウスでの寄生は認められなかった。
4. 本種の形態、特徴等
  - 1) 形態  
雌成虫は長楕円形で体長は通常 3~5mm 程度。体色は灰色で体表は白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁のロウ物質分泌物の突起は 18 対あるが、短く目立たない。
  - 2) 分布  
日本: 平成 15 年に高知県で初めて特殊報が発表された。これまでに長崎県、愛知県など 11 府県で特殊報が発表されている。  
海外: 台湾、ベトナム、タイ、スペイン、ジンバブエ、南アフリカ、北米、ブラジル、コロンビア、ハワイ、ミクロネシア等で分布が確認されている。
  - 3) 生態  
本種は産雌性単為生殖を行い、雄は知られていない。また、卵のうを形成せず直接産仔する。3 齢幼虫を経て成虫となり、年に数世代を繰り返す。
  - 4) 寄主・被害  
広食性で、雑草を含むキク科、アブラナ科、ナス科、ウリ科等 30 科に及ぶとされ、国内では施設栽培のピーマン、ナス、トウガラシ、キュウリ、キク、スイゼンジナ、パンジーで発生が確認されている。主に葉、茎に寄生し、多発すると果実にも寄生する。成幼虫の吸汁による生育障害や排泄物によるすす状の汚れが生じ、葉や果実の外観品質が低下する。
5. 防除対策
  - 1) 葉や茎の分岐点等に成幼虫の寄生がないかをよく観察し早期発見に努め、見つけ次第捕殺するか、発生部位を除去し、施設外に持ち出し土中に埋めるなど適切に処分する。
  - 2) 本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生するため、観葉植物等の持ち込みを控え、施設内外の除草に努める。
  - 3) 既発生県では、減農薬栽培ピーマン等で本種の発生を確認しており、減農薬栽培や無農薬栽培の野菜等では注意が必要である。
  - 4) 現在のところ、キュウリにおいて本種に適用のある農薬はない。



写真1：ナスコナカイガラムシ雌成虫



写真2：キュウリ葉に寄生する成虫及び幼虫



写真3：ゴマノハグサ科雑草に寄生する成虫及び幼虫



写真4：イネ科雑草に寄生する成虫および幼虫



写真5：スベリヒユ科雑草に寄生する成虫及び幼虫



写真6：シソ科雑草に寄生する成虫

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085